

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-183690

(43)Date of publication of application : 30.06.1992

(51)Int.Cl.

B62J 9/00

(21)Application number : 02-311083

(71)Applicant : HONDA MOTOR CO LTD

(22)Date of filing : 16.11.1990

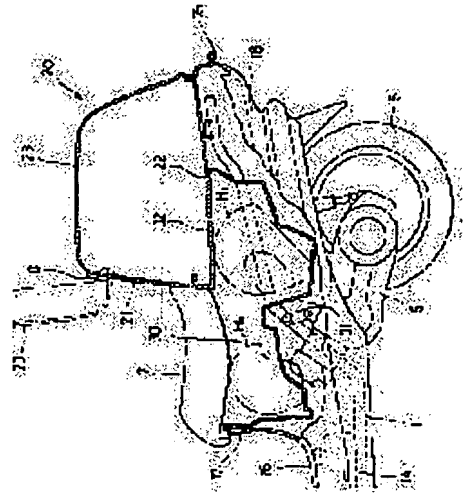
(72)Inventor : NAKAMURA AKIRA  
YAMADA HAJIME  
TAKAHASHI HIDEYUKI

## (54) ARTICLE STORING DEVICE FOR MOTOR-BICYCLE

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To enable storing a long-size article when necessary by providing article storing parts below a seat and a position adjoining at least one of its front and rear direction, respectively, and by providing a dividing member which can be opened or closed for making both the article storing parts communicate to each other between these adjoining article storing parts.

**CONSTITUTION:** A rear trunk 20 constituting an article storing part of a car body rear part is provided at the rear of a seat 7, and an article storing part 30 is provided below the seat 7 with an almost front half of an upper opening of a storing box 31 of the storing part 30 capable of being opened or closed by the seat 7 which can be stood or laid with a hinge at front. An almost rear half of this opening is faced and continued to an almost front half of a bottom surface of a storing box 21 of the rear trunk 20. And a communication hole 22 is opened from the almost front half of the bottom surface of this storing box 21 to a front lower part, and a dividing member 32 in the plate state is removably provided at this communication hole 22 so that an appropriate long-size article can be stored by making both the storing boxes 21 and 31 communicate to each other through removing this dividing member 32, when necessary.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

CSP-112-A - Co-pending application  
CSP-111-A

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

## ⑫ 公開特許公報(A)

平4-183690

⑤ Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成4年(1992)6月30日

B 62 J 9/00

G

7149-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全1頁)

⑥ 発明の名称 自動二輪車の物品収納装置

⑦ 特 願 平2-311083

⑧ 出 願 平2(1990)11月16日

⑨ 発 明 者 中 村 彰 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内  
⑩ 発 明 者 山 田 一 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内  
⑪ 発 明 者 高 橋 秀 行 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内  
⑫ 出 願 人 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山2丁目1番1号  
⑬ 代 理 人 弁理士 下田 容一郎 外2名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

自動二輪車の物品収納装置

## 2. 特許請求の範囲

自動二輪車のシート下方に物品収納部を設け、シートの前後方向のうち少なくとも一方に隣接して更に物品収納部を設けるとともに、これら前後に隣接する両物品収納部の間には、両物品収納部間を連通自在とする開閉自在な仕切り部材を設けたことを特徴とする自動二輪車の物品収納装置。

## 3. 発明の詳細な説明

## [産業上の利用分野]

本発明は、自動二輪車における物品収納装置に関し、特にシート下方とその後方または／及び前方に隣接する物品収納部に関するものである。

## [従来の技術]

シート下方に物品収納部を備えたスクーター車両において、その物品収納部の前後に開閉蓋を設けて、長尺物の収納を可能としたものが、特開昭61-287889号公報により公知となっている。

## [発明が解決しようとする課題]

ところが、物品収納部の前後の開閉蓋を開けた状態のまま、長尺物を収納するのでは、その収納物の一部が外部に露出し、雨水等からの保護が図れない。

そこで本発明の目的は、自動二輪車において、シート下方とその後方または／及び前方に隣接するスペースを有効に利用して物品の収納容量を増大し、必要に応じて長尺物を収納できる装置を提供することにある。

## [課題を解決するための手段]

以上の課題を解決すべく本発明は、自動二輪車のシート下方に物品収納部を設け、シートの前後方向のうち少なくとも一方に隣接して更に物品収納部を設けるとともに、これら前後に隣接する両物品収納部の間には、両物品収納部間を連通自在とする開閉自在な仕切り部材を設けたことを特徴とする。

## [作用]

シート下方の物品収納部と、シートの前後方向

のうち少なくとも一方に隣接した物品収納部とを備えるので、スペースを有効に利用して、多くの物品を収納できるとともに、これら前後に隣接する両物品収納部の間に設けた開閉自在な仕切り部材を外す等して、両物品収納部間を連通できるため、長尺物も収納できる。

#### 〔実施例〕

以下に添付図面を基に実施例を説明する。

本発明を適用した第1実施例に係る一例としてのスクータ車両を示す第1図乃至第3図において、1は車体フレーム、2はハンドル、3は前輪、4はフロントフォーク、5は後輪、6はパワーユニット、7はシート、8は背もたれクッション、9は燃料タンク、10はボディパネル、20はリヤトランクである。ボディパネル10は、レグシールド11、ハンドルコラムカバー12、フロントフェンダ13、左右のフロア14、14、その間のトンネル部15、シートポストカバー17、リヤフェンダー一体のリヤカバー18等で構成されており、19はハンドルカバーである。燃料タン

とされており、更に開口部の略後半部が前記リヤトランク20の収納ボックス21の底面略前半部に臨んで連続している。

このシート7下方の収納ボックス31内には、その後半部と前半部にヘルメットH<sub>1</sub>、H<sub>2</sub>が夫々個別に収納可能となっている。

またリヤトランク20には、その収納ボックス21の底面略前半部から前面下部にかけて連通口22が開口されており、この連通口22には、板状の仕切り部材32が着脱自在に設けられている。

尚、仕切り部材32は、一辺部をヒンジにより起倒自在に結合して、連通口22を開閉自在としても良い。また第4図において、リヤトランク20の収納ボックス21底面上に滑り止め21a…が設けられている。

以上のスクータ車両によれば、シート7の後方にリヤトランク20を備えているので、その開閉蓋23を開けて、収納ボックス21内に適宜の物品を出し入れできるとともに、シート7を起こして、その下方の収納ボックス31内にも適宜の物

品を出し入れできる。

シート7後方に設置されて車体後部の物品収納部をなすリヤトランク20は、上方及び後方に開口する収納ボックス21と、その開口部を前方のヒンジにより開閉自在とする開閉蓋23とから構成されている。開閉蓋23の前面に背もたれクッション8が付設されている。収納ボックス21には、両側面下部のサイドバンパ24、24、後面下部のリヤバンパ25、前部上面一側部の無線アンテナ26、両側面上部のウインカランプ27、27が夫々設けられるとともに、後面下部の左右に、ストップランプ兼用のテールランプ28、28及びウインカランプ29、29が夫々設けられている(第4図参照)。

そして第3図のように、シート7下方にも物品収納部30が設けられており、即ち上方に開口する収納ボックス31が設置されている。この収納ボックス31は、その開口部の略前半部を前方のヒンジにより起倒自在なシート7により開閉自在

品を出し入れできる。

そして以上の如く前後に隣接した両収納ボックス21、31間の仕切り部材32を、必要な時に外す等して、第5図に示すように、両収納ボックス21、31間を連通させられるので、その中の大きなスペースを十分に利用して、適宜の長尺物Lをも収納できるものとなっている。

ところで、以上のスクータ車両は、例えば第6図のように、ハンドルコラムカバー12にグローブボックスの開閉蓋121及びその上方のハンガーパイプ122を有しており、このハンガーパイプ122には、地図入れ123、小物入れ124、無線用マイク125及び地図用照明ランプ126を装備できるものとなっている。127はマイク用ソケット、128はランプ用ソケットである。

第7図及び第8図はリヤトランク20内の底部構造の変更例を示すもので、221は左右の小物入れボックス、223は後方の小物入れボックスである。

即ちリヤトランク20の収納ボックス21下部

において、シート7下方の収納ボックス31の略後半部と一体に、左右の小物入れボックス221、221及び後方の小物入れボックス223を形成したものである。図示の如く、収納ボックス31の略後半部両側に平面視U字状の突堤部222を介して左右の小物入れボックス221、221が連続するとともに、その後側には横方向の突堤部224を介して後方の小物入れボックス223が連続している。

また突堤部222内にはリヤフレームパイプ101が延び、このリヤフレームパイプ101に、サイドバンパ24から延びて突堤部224内を通る横パイプ241が結合されている。

そしてリヤトランク20の収納ボックス21下方に臨む収納ボックス31略後半部の上面開口部に開閉蓋32が設けられるとともに、その両側の小物入れボックス221の上面開口部にも開閉蓋232が設けられている。

次に第9図及び第10図はリヤトランク20内の底部構造の更なる変更例を示すもので、321

は左右の小物入れボックス、323は後方の小物入れボックスである。

即ちリヤトランク20の収納ボックス21下部において、シート7下方の収納ボックス31の略後半部とは別体として、左右の小物入れボックス321、321及び後方の小物入れボックス323を設けたものである。図示の如く、収納ボックス31の略後半部の両側及び後側に、左右の小物入れボックス321、321と、その後側に横方向の突堤部324を介して一体に連続する後方の小物入れボックス323を配置して、互いの周縁部を重ね合わせるとともに、その上面に平面視U字状の突堤部材325を重ねて、ボルト結合している。

また収納ボックス31と両側の小物入れボックス321との間にはリヤフレームパイプ101が延び、このリヤフレームパイプ101に、サイドバンパ24から延びて突堤部324内を通る横パイプ241が結合されている。

そしてリヤトランク20の収納ボックス21下

方に臨む収納ボックス31略後半部の上面開口部をなす突堤部材325の内方に開閉蓋32が設けられるとともに、その両側の小物入れボックス321の上面開口部にも開閉蓋332が設けられている。

以上はスクータ車両への適用例を説明したが、次にオートバイ車両への適用例について説明する。

第2実施例に係る一例としてのオートバイ車両を示す第11図において、40はエンジン、41は車体フレーム、42はハンドル、43は前輪、44はフロントフォーク、45は後輪、46はスイングアーム、47はシート、48は背もたれクッション、49は燃料タンク、50はフルカウリング、60はリヤトランクである。フルカウリング50は、フロントカウル51、ミドルカウル52、ロアカウル53、シートカウルを兼ねるリヤカウル54等で構成されており、55はフロントフェンダ、56はリヤフェンダである。

燃料タンク49後部に連続するシート47の後方に設置されて車体後部の物品収納部をなすリヤ

トランク60は、上方及び後方に開口する収納ボックス61と、その開口部を前方のヒンジにより開閉自在とする開閉蓋63とから構成されている。開閉蓋63の前面に背もたれクッション48が付設されている。

そしてシート47下方にも物品収納部70が設けられており、即ち上方に開口する収納ボックス71が設置されている。この収納ボックス71は、その開口部を前方のヒンジにより起倒自在なシート47により開閉自在とされており、更に後面が前記リヤトランク60の収納ボックス61の前面下部に連続している。

またリヤトランク60には、その収納ボックス61の前面下部に連通口62が開口されており、この連通口62に板状仕切り部材72が着脱自在に設けられている。

以上のオートバイ車両によれば、前記スクータ車両と同様に、シート47の後方にリヤトランク60を備えているので、その開閉蓋63を開けて、収納ボックス61内に適宜の物品を出し入れでき、

またシート47を起こして、その下方の収納ボックス71内にも適宜の物品を出し入れできるとともに、以上の如く前後に隣接した両収納ボックス61、71間の仕切り部材72を、必要な時に外す等して、両収納ボックス61、71間を連通させられるので、その中の大きなスペースを十分に利用して、適宜の長尺物Lをも収納できるものとなっている。

次に第12図は第3実施例に係るオートバイ車両を示すもので、前記と同様に、シート47下方に物品収納部70（収納ボックス71）を設けるとともに、前記リヤトランク60に代えて、シート47前方に車体前部の物品収納部をなすフロントトランク80を設置しており、燃料タンク99はシート47下方の収納ボックス71の下方に配設している（第13図も参照）。

即ちフロントトランク80は、上方に開口する収納ボックス81と、その開口部を前方のヒンジにより開閉自在とする開閉蓋83とから構成されており、所謂ダミータンク形状をなしている。

両を示すもので、前記と同様に、シート47下方に物品収納部70（収納ボックス71）を設けるとともに、前記リヤトランク60と、前記フロントトランク80とをともに設置してなる。

以上のオートバイ車両によれば、シート47の前後にフロントトランク80とリヤトランク60とを備えているので、その夫々の開閉蓋83、63を開けて、各々の収納ボックス81、61内に適宜の物品を出し入れでき、また前記と同様に、シート47を起こして、その下方の収納ボックス71内にも適宜の物品を出し入れできるとともに、以上の如く前後に隣接した3個の全収納ボックス61、71、81間の各仕切り部材72、73を、必要な時に外す等して、これら3個の全収納ボックス61、71、81間を連通させられるので、その中の大きなスペースを十分に利用して、適宜の長尺物Lをも収納できるものとなっている。

以上の各実施例の如く本発明は、スクータ車両及びオートバイ車両の何れのタイプの自動二輪車にも適用可能である。

そしてシート47下方の収納ボックス71前面がフロントトランク80の収納ボックス81後面下部に連続している。

またフロントトランク80の収納ボックス81後面に連通口82が開口されており、この連通口82に板状仕切り部材73が着脱自在に設けられている。

以上のオートバイ車両によれば、シート47の前方にフロントトランク80を備えているので、その開閉蓋83を開けて、収納ボックス81内にヘルメットHを含む適宜の物品を出し入れでき、また前記と同様に、シート47を起こして、その下方の収納ボックス71内にも適宜の物品を出し入れできるとともに、以上の如く前後に隣接した両収納ボックス71、81間の仕切り部材73を、必要な時に外す等して、両収納ボックス71、81間を連通させられるので、その中の大きなスペースを十分に利用して、適宜の長尺物Lをも収納できるものとなっている。

次に第14図は第4実施例に係るオートバイ車

#### [発明の効果]

以上のように本発明によれば、シート下方の物品収納部と、シートの前後方向のうち少なくとも一方に隣接した物品収納部とを備える自動二輪車のため、スペースを有効に利用して、多くの物品を収納することができるとともに、これら前後に隣接する両物品収納部の間には、両物品収納部間を連通自在とする開閉自在な仕切り部材を設けたため、必要な時に仕切り部材を外す等して、前後の両物品収納部間を連通させて、その中に長尺物を収納することができる。

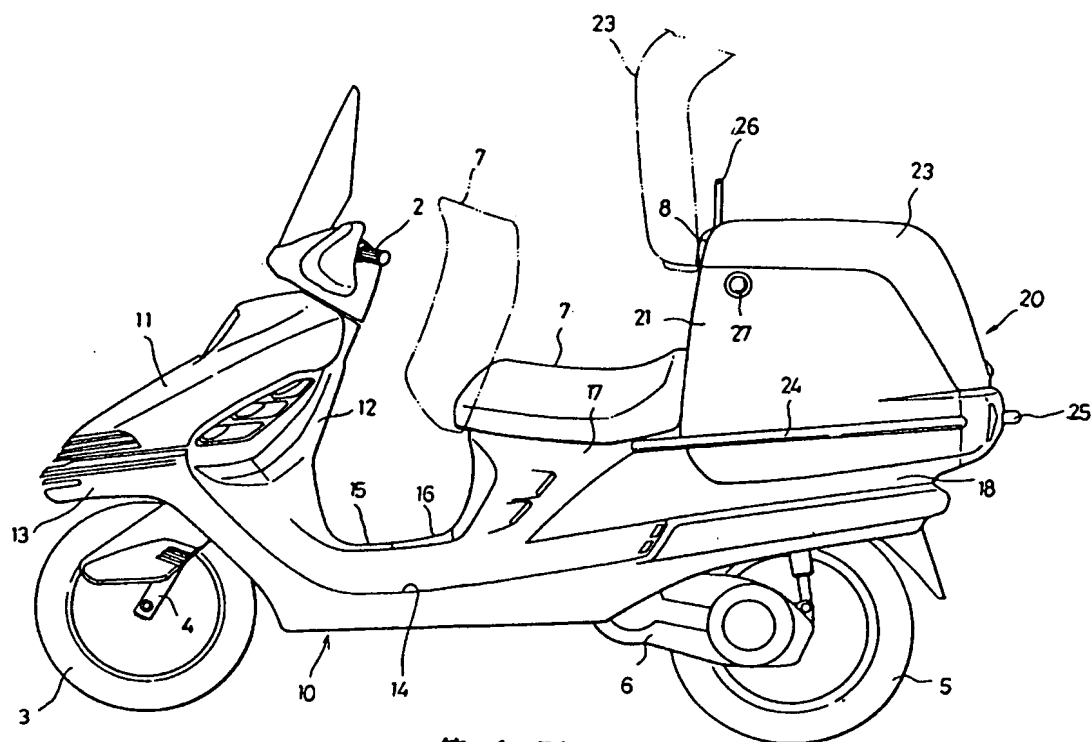
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本発明を適用した第1実施例に係るスクータ車両の一例を示す外觀側面図と同平面図、第3図は物品収納部を破断して示した側面図、第4図は後方の物品収納部と仕切り部材を示す分解斜視図、第5図は長尺物を収納した状態の一例を示す破断側面図、第6図は車体前部に装備可能な備品の分解斜視図、第7図は後方物品収納部の変更例を示す斜視図、第8図は第7図の

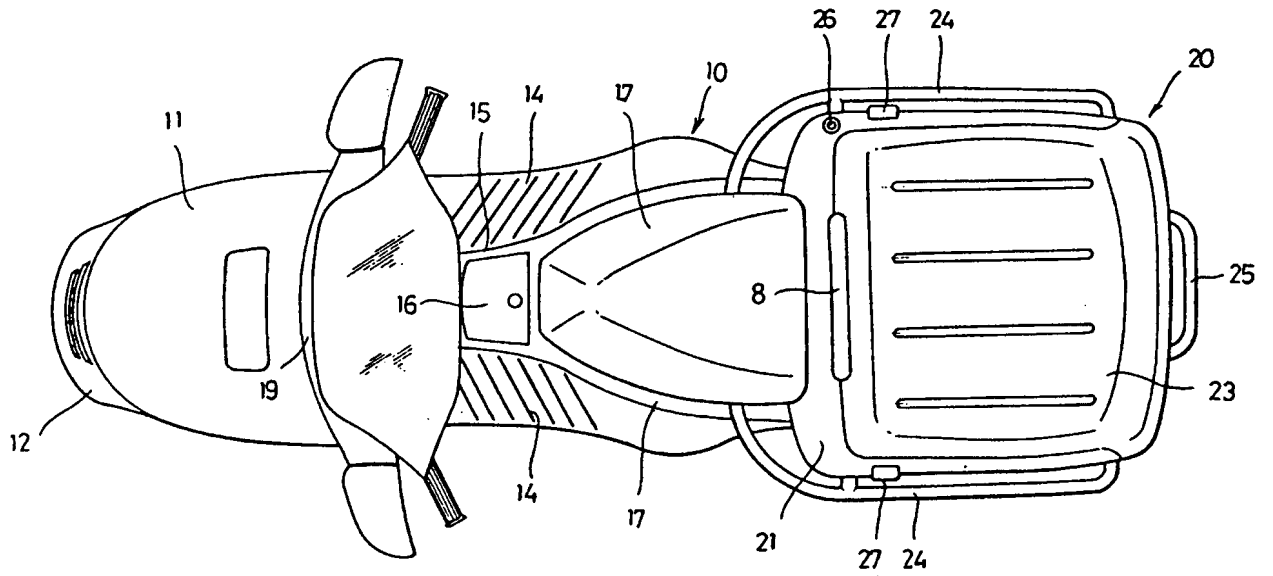
矢印A-A線に沿った断面図、第9図は後方物品収納部の別変更例を示す斜視図、第10図は第9図の矢印B-B線に沿った断面図、第11図は第2実施例に係るオートバイ車両を示す要部破断の側面図、第12図は第3実施例に係るオートバイ車両を示す要部破断側面図、第13図は第12図の矢印C-C線に沿った断面図、第14図は第4実施例に係るオートバイ車両を示す要部破断側面図である。

7, 47...シート、20, 60...シート後方の物品収納部、30, 70...シート下方の物品収納部、32, 72, 73...仕切り部材、80...シート前方の物品収納部、L...長尺物。

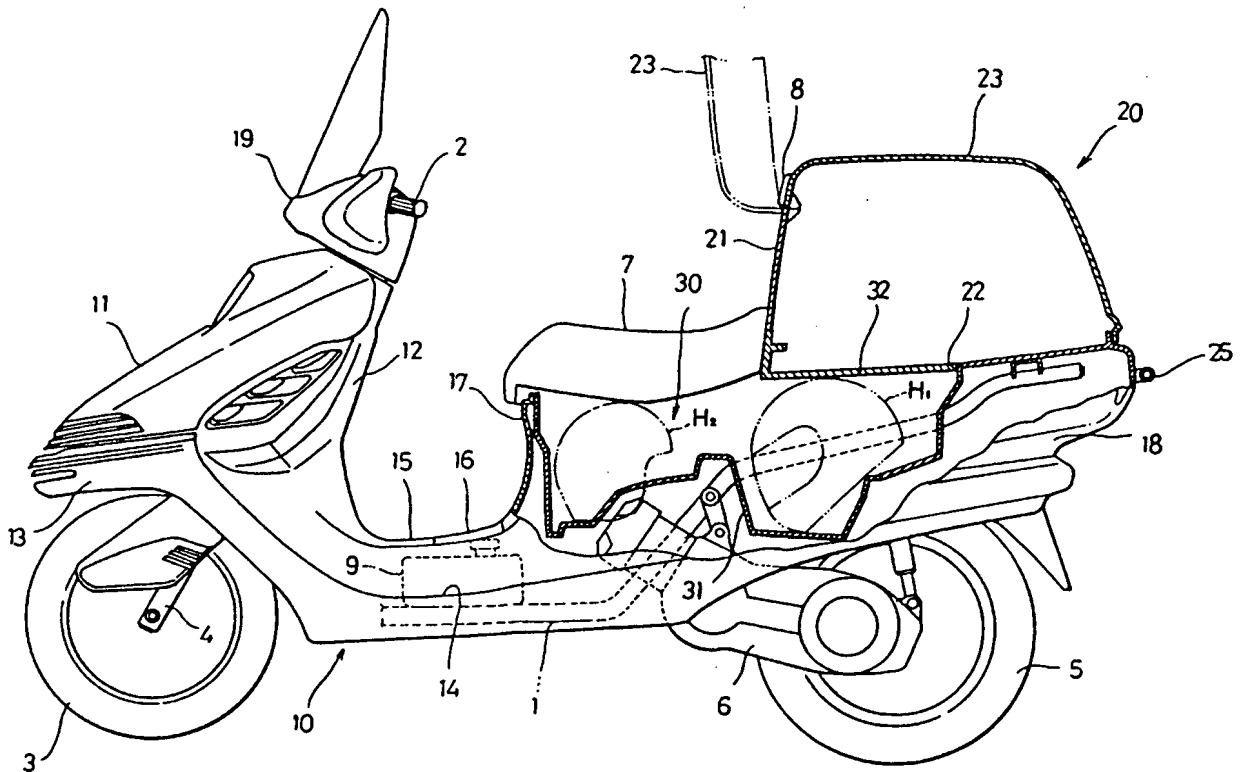
特許出願人	本田技研工業株式会社		
代理人	弁理士	下田	容一郎
同	弁理士	大橋	邦彦
同	弁理士	小山	有



第1図

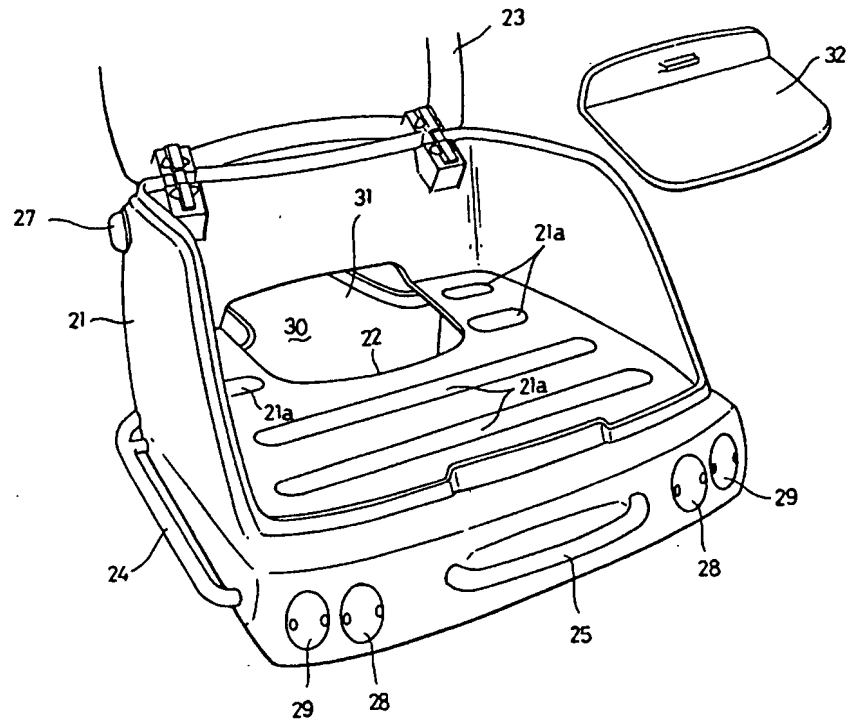


第 2 図

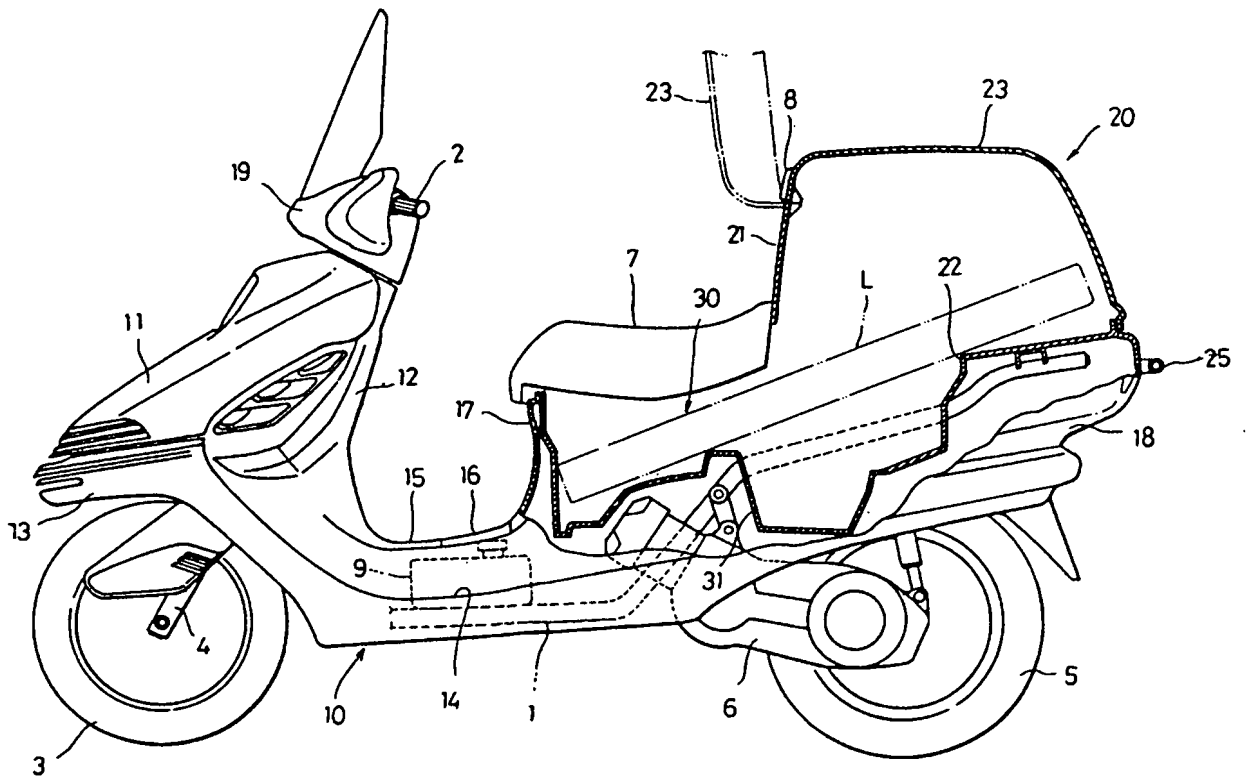


第 3 図

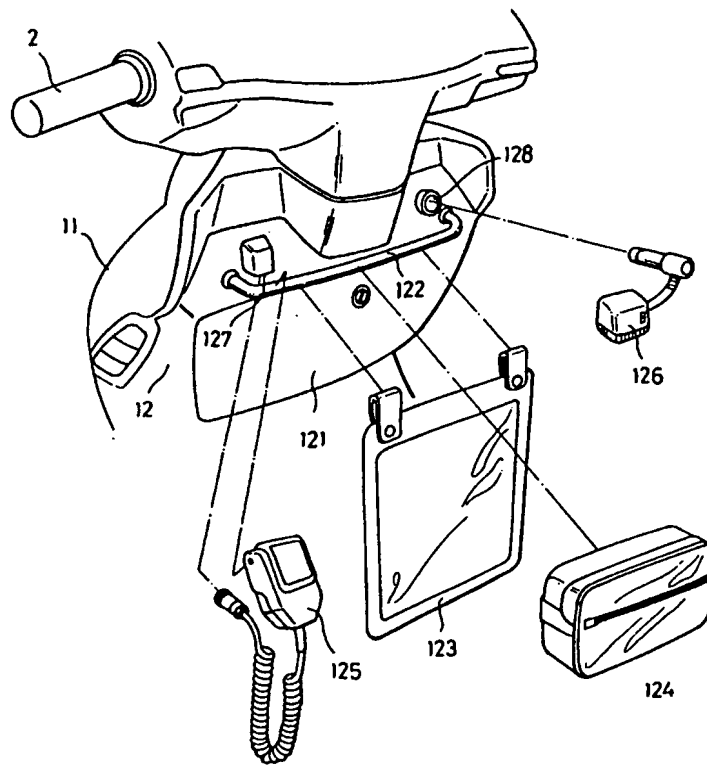




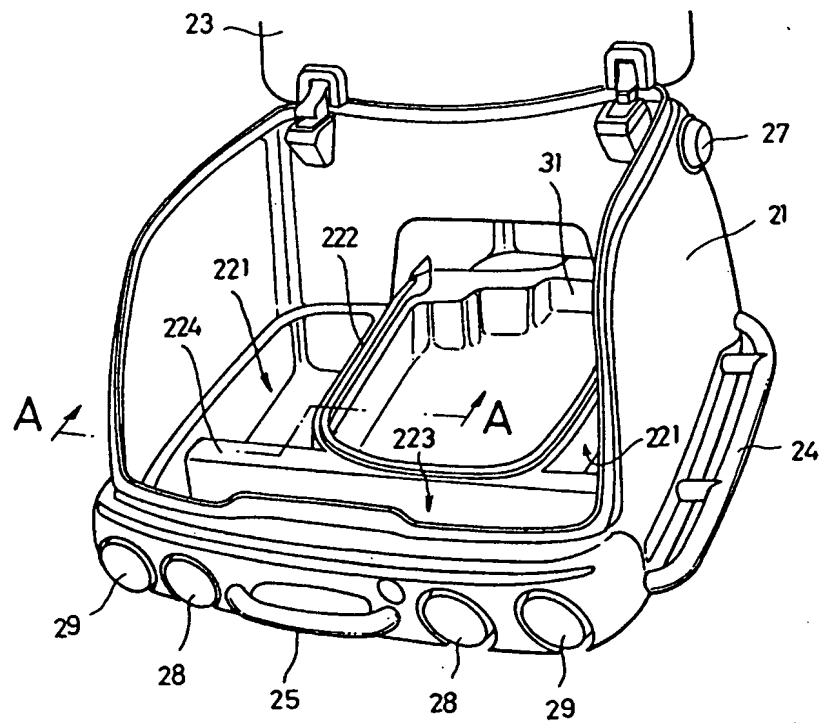
第 4 図



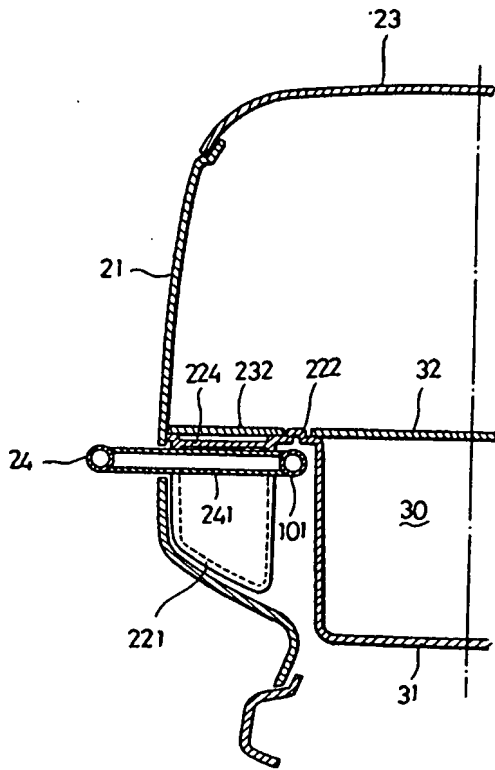
第 5 図



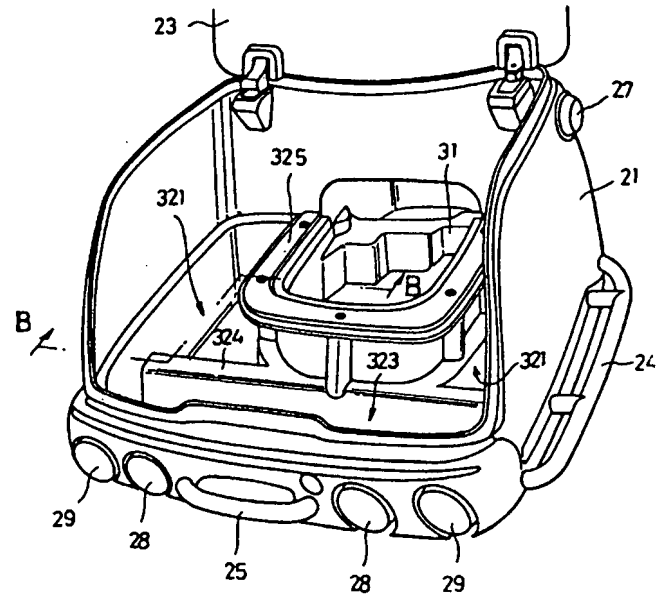
第 6 図



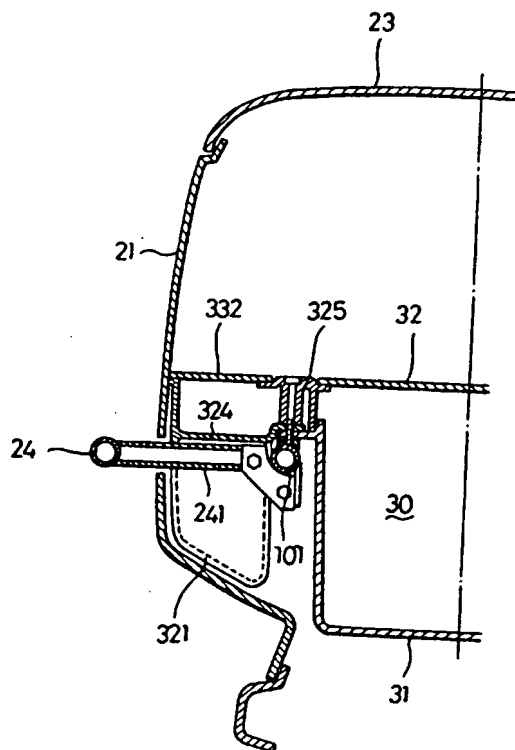
第 7 図



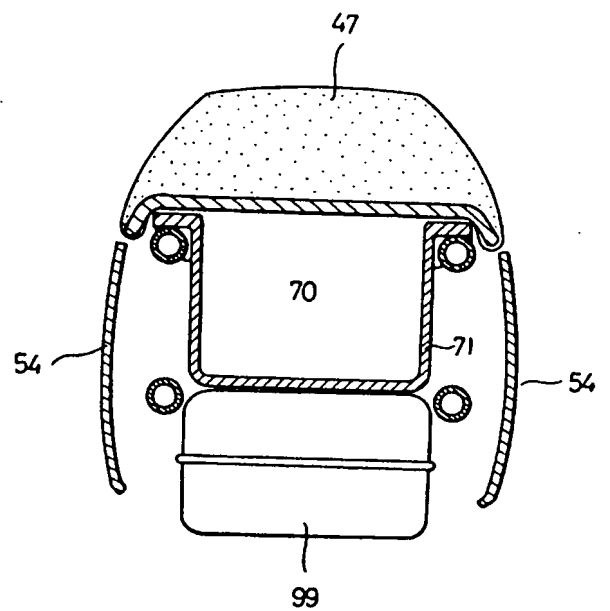
第 8 図



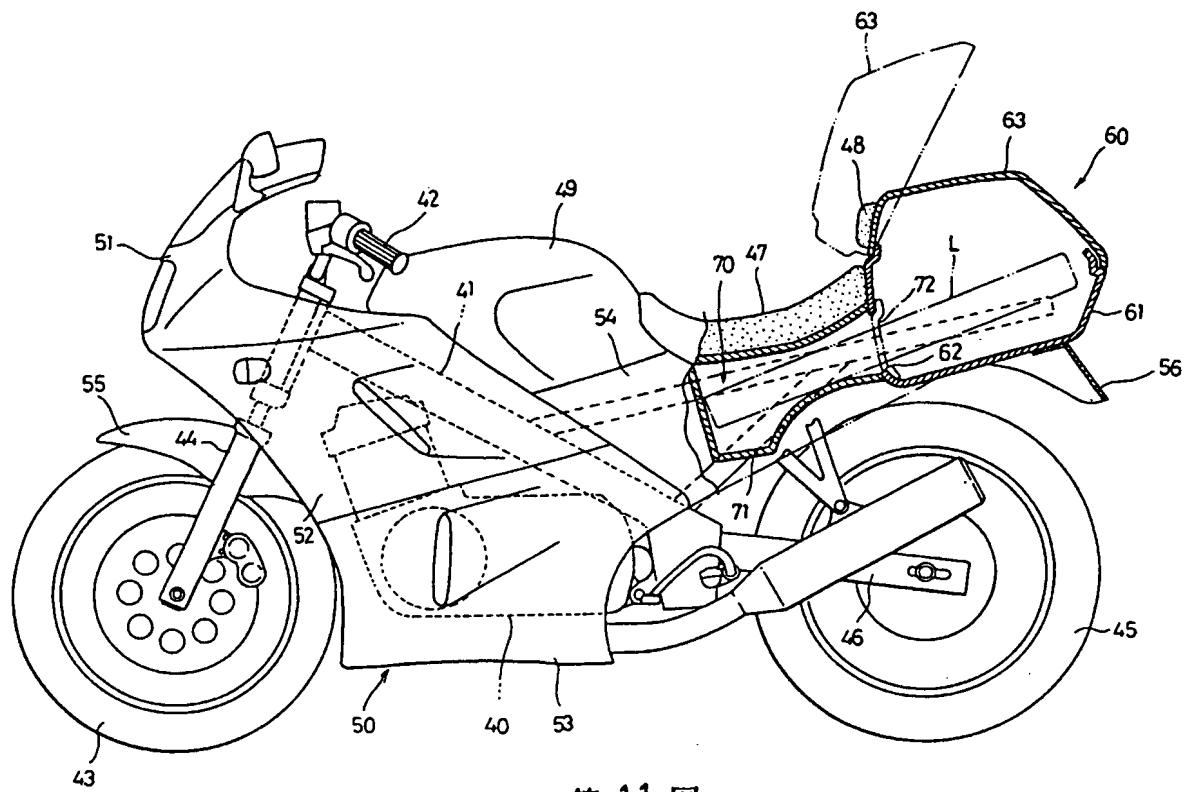
第 9 図



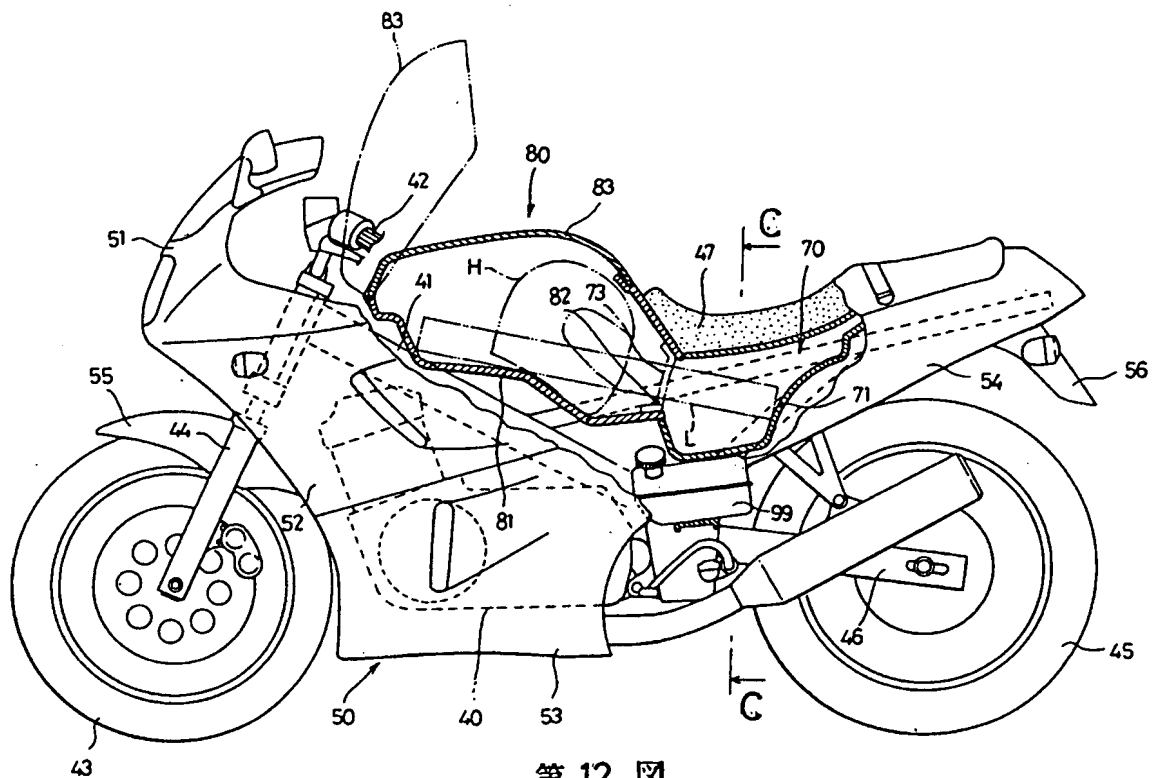
第 10 図



第 13 図



第 11 図



第 12 図

